



橋梁部の完成状況

ジャムナ鉄道橋建設事業  
東工区パッケージWD-1  
(バングラデシュ)

大林組・東亜建設工業・  
JFEエンジニアリングJV

# インフラ導入と同時に技術伝承

バングラデシュの中央部を南北に流れるジャムナ川に架かる鉄道・道路併用のジャムナ多目的橋は、鉄道部が単線で速度制限が設定されていることから物流のボトルネックとなっており、輸送が滞っていた。そこで既存橋の上流300m地点に複線かつ広軌・狭軌の三線軌条の鉄道専用橋を新設した。鉄道輸送需要への対応や安全性の改善、バングラデシュ国内・近隣諸国との輸送ネットワークの効率化を図った。

## 物流制約解消へ 三線軌条の鉄道専用橋を新設



陸上軌道工の完成状況（駅部からダッカ側を望む）



既存駅舎の改修工完成（左上がダッカ方向）

**概要**

- ▷実施者＝大林組・東亜建設工業・JFEエンジニアリングJV
- ▷実施国＝バングラデシュ人民共和国
- ▷実施都市・地区＝タンガイル県
- ▷プロジェクト関係者＝バングラデシュ人民共和国鉄道省バングラデシュ国鉄（発注者）、オリエンタルコンサルタンツグローバル・長大・DDC共同企業体（設計者）
- ▷実施期間＝2020年8月～24年8月

着工当初はコロナ禍で日本人職員不在のまま現場を立ち上げ、海外からの材料調達は困難を極めた。さらに工事中盤に発注者からの大規模な設計変更要請、工事終盤には政権交代に至った暴動による国全体の混乱など多くの苦境に直面したが、現場スタッフは全員で共通の目標に向かって課題を乗り越え、重大災害を起こすことなく、約定工期を順守した。

プロジェクトは、JICA（国際協力機構）の有償資金援助により、東西2工区に分割発注され、東工区6・8kmの施工を大林組・東亜建設工業・JFEエンジニアリングJVが担当した。近年、日本国内でも施工実績がない技術が設計に採用されたが、日本の技術者を多数配置することで、現地スタッフ・現地業者への指導・管理を徹底。高品質なインフラシステムの導入と技術伝承を併せて行った。



上部工（鋼トラス）の工区境到達時。ジャムナ川中央部、上流から下流側を望む

